

# 第1回 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会

## 議事概要

日時 令和2年5月27日(水) \*書面開催

委員 涌井史郎座長、遠藤進副座長、内海一富委員、工藤良幸委員、古積昇委員、今野彩子委員、佐藤修委員、佐藤重喜委員、佐藤美嶺委員、庄子真岐委員、深松努委員、本郷敏章委員、舛谷成幸委員、渡部桂委員

### 1. 座長選出

遠藤進委員より、涌井史郎委員を座長に推薦したい申し出があり、両名を除く12名の委員に対し書面にて涌井史郎委員の座長選出につき同意を求めたところ、12名全員より賛同の表明があった。

### 2. 副座長選出

涌井史郎座長より遠藤進委員を副座長に指名したいとの申し出があり、これにより遠藤進委員が副座長に就任した。

### 3. 委員からの意見

#### (1) 全国都市緑化仙台フェアの開催意義について 資料8

##### ○全般的な意見

東日本大震災からの緑の復興、そしていち早く条例等を整備し、緑のまちづくりを推進、保全してきた杜の都仙台が、将来に向けた百年の杜づくりを緑化フェアを通して発信することがなにより重要であると思います。	内海一富委員
条例制定や太政官布達から節目の年に当たるといことで、市民1人1人が改めてみどりと調和したまちづくりについて考えを深め、新たな魅力やアイデアが湧き出るような機会になればと思います。	佐藤美嶺委員

##### ○『次世代へと続く新たな「百年の杜」づくり』に関する意見

百年の杜づくりを推進していくことに賛同するところですが、「百年の杜」づくりが包括する意味合いは大きく、ここでは、何を表現していきたいのか概念的でつかみどころがないような印象を受けるのではないのでしょうか。「百年の杜」づくりをどのように表現していくのか、百年の杜づくりを推進していく中で、どのようなことを中心に進めていくのか、もう少しわかりやすく説明することも必要と思います。	遠藤進副座長
---	--------

<p>次世代へと続くや次世代を担うという言葉が出てきますが、そのことに異論はありません。しかし、これから検討される基本方針などでは具体的にどの様な手立てをして引き継ぐのかが問われると思います。ご検討ください。</p> <p>※具体的には：人材の育成や環境教育の継承発展、市有林への市民参加の森作り、学校林の整備と活用方法などです。そのための拠点作りと予算の裏付けなどは極めて重要です。</p>	<p>佐藤修 委員</p>
<p>「杜の都の環境をつくる条例」「広瀬川の清流を守る条例」から半世紀が経過する節目の年に、2つの条例で目指した世界観（その後の百年の杜づくりプロジェクトに繋がる要素）の経過状況、百年の杜づくりスタートから四半世紀の状況を点検する意義があると思います。それらは道半ばで継承が必要ですので、その中身を検証しながら伝えつつ、今とこれからの時代性を踏まえ、都市の高度化に合わせた緑のより賢い利用、より高度な利用としてのグリーンインフラの理解と普及の意義が次にあると思います。おまとめいただいている内容と同じことをお伝えしているとは思いますが、強調するならば、点検というか蓄積の評価が継承には大事であり、開催意義としても大事かと思います。</p>	<p>渡部桂 委員</p>

○『市民がみどりと親しむ仙台スタイルの発見』に関する意見

<p>新型コロナ感染拡大により、現状ではインバウンドという機運がだいぶ後退したきらいもありますが、今後もたくさんの方々の方が仙台を訪れるような魅力づくりを戦略的に進めていく必要があります。これから、仙台を訪れる方々に、どのようにおもてなしをして、ウェルカムして、「杜の都仙台」の魅力をアピールしていくのか、意識した表現を付け加えていく事も必要と思います。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
<p>杜の都のシンボルとして、「青葉山公園から定禅寺通」までの表現は、まさにその通りですが、加えて仙台の中心市街地の景観を形成する広瀬通と愛宕上杉通のイチョウ並木、東二番丁通のケヤキ並木等は杜の都を構成する重要な「緑の回廊」となっております。緑化フェア開催時は、杜の都が新緑に包まれる最も美しい時期、杜の都仙台を訪れる方々にぜひご紹介したいと思います。これら「緑の回廊」も含めた街の緑が「杜の都」のシンボルと捉えたいと思いますが、意図するところにそぐわないでしょうか。</p>	
<p>ことばの表現です。開催意義2の下段、「価値と機能」は入れ替えた方がよいと思います。</p>	
<p>次世代へと続くや次世代を担うという言葉が出てきますが、そのことに異論はありません。しかし、これから検討される基本方針などでは具体的にどの様な手立てをして引き継ぐのかが問われると思います。ご検討ください。</p> <p>※具体的には：人材の育成や環境教育の継承発展、市有林への市民参加の森作り、学校林の整備と活用方法などです。そのための拠点作りと予算の裏付けなどは極めて重要です。 *再掲</p>	<p>佐藤修 委員</p>

<p>大事な意義と思います。ここで指す「市民」は、仙台の在住者に限らず、広く一般市民を指す「市民」と捉えます。「みどりに親しむ仙台スタイル」を発見する主体は、そこで暮らす市民であり、仙台に憧れて訪れる一般市民でもあります。むしろ、仙台のスタイルに敏感に反応する（反応できる）人々は仙台の外の市民かもしれません。かつ、みどりの空間を活かしながら街の中が活発に利用される状況には、都市内外からのダイナミックな人の動きが伴いますし、必要です。在住市民にとっては、改めて魅力に気づき、何かそこで始めてみたくなる意義、外からみている市民にとっては、行ってみたくなる、参加してみたくなる、暮らしてみたくなる意義があるのかと思います。</p> <p>仙台スタイルには様々な形があるのかと思いますが、ビジュアルイメージとして最も印象的典型的なものが、大きな木陰の下に賑わいが生まれている情景です。今後の議論の範疇ですが、これから木陰を利用・創出し、様々な市民活動が行われることを期待する場所に、シミュレーション的にイベント空間を配置し、その結果を元に実際の緑化や活用が行われるよう、イベントから実整備が上手く連動すると良いと考えます。</p>	渡部桂 委員
---	-----------

○『東日本大震災からの復興と防災の杜づくりの継承』に関する意見

<p>東日本大震災からの復興と防災の杜づくりの継承の記述の中で、かさ上げ道路の整備や海岸公園の復旧とともにみどりの再生を進めとありますが、みどりの再生では具体的に何か判りづらいと感じます。ここは海岸防災林（あるいは単に海岸林の表現でも良い）の再生と述べた方が分かりやすいと思いますがいかがでしょうか。これまで抵抗性クロマツなど 33,000 本以上を植栽した実績は素晴らしい取り組みの成果だと思います。</p>	佐藤修 委員
<p>復興というのは大きなキーワードになると考えています。ハードの視点ではグリーンインフラを取り入れた復旧が防災・減災や津波被災地域の復興に欠かせなかったのは確かであると思います。</p> <p>しかし実は、ソフトの視点においても、グリーンインフラによる効果はとても大きいと考えています。震災後の心のケア（大人も子どもも）や、コミュニティの再構築にみどりが果たした役割はとても大きいと感じています。平時の備えにおいても、公園や気持ちの良い散歩道は、地域のつながりや愛着を生み、地域防災を支えています。また、子ども達にとっては、身近にみどりがあり、そこで自由に遊ぶことが、体の発達や生きる力（困難を乗り越える力）を育むことに大きな影響を与えます。子育て中の母親にとっても、子どもの興味が尽きないみどりの多い公園は、育児をする上でとても大事な場所であると感じています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響が出てからは、より一層、みどりと触れ合える場所の重要性が注目されていると感じています。以上より、ソフトの視点によるグリーンインフラの重要性についても、ここで触れていただけると嬉しく思います。</p>	佐藤美嶺 委員

<p>大事な意義と思います。政治的、行政的に、「東日本大震災からの復興」は外せないフレーズと思います。そしてそれだけにとどまらず、広く防災としてのみどりの活用が大事だと思います。ただし、みどりの基本計画や百年の杜づくりプロジェクトでも、地震と津波からの防災が強調されており、その他の多様なみどりの防災機能も意識されていることは文言からも分かりますが、文言のバランスとして前者へのウエイトがとても重く見えます。意義として問題があるわけではありません。復興も道半ば、今後を着実に進めて行く必要がありますが、身近なところで起こる小さな災害も都市内部では沢山あります。開催理念にはしっかり示されていますが、震災復興・防災に加えて、特に人口が密集する都市における防災・減災を意識する意義、実際にみどりが役立つことを市民が理解し、そのために守り増やす意識を高める意義がもう少し強く示されても良いかと思いました。</p>	<p>渡部桂 委員</p>
---	-------------------

(2) 全国都市緑化仙台フェアの開催理念について **資料8**

○全般的な意見

<p>令和5年度に、仙台において緑化フェアが開催されることは、東日本大震災から復興した姿を仙台から全国に発信できる貴重な機会であります。この機会に復興した「杜の都」を全国にお知らせするために、緑化フェアでは、その復興の姿を紹介するとともに、開催に関する理念においては、その趣旨を盛り込んでおく必要があると思います。百年の杜づくりにおいても、震災から復興する「杜の都」の姿は根底にある考え方だと思いますが、震災からの復興という内容は、やはり特化しておくべきものと思います。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
<p>杜の都仙台が今後、百年の杜づくりを通して、都市緑化の推進、保全における全国のリーダー的役割を担う機会となつてほしいと考えます。</p>	<p>内海一富 委員</p>
<p>理念（案）には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「百年の杜」「杜の都・仙台」を学ぶ、みつめ直す、気づく</li> <li>・みどりが新たな交流や都市の活力を生み出すまちづくり</li> <li>・自然と調和した持続可能なまちづくり</li> <li>・防災・減災、みどりの多様な機能の見直し ・グリーンインフラ ・情報発信</li> </ul> <p>という要素が散りばめられており、よろしいかと思ひます。もし加えるなら、これまでの取り組みの点検・検証でしょうか。</p>	<p>渡部桂 委員</p>

○開催理念1に関する意見

<p>「百年の杜」づくりという表現は、仙台市民にとっては聞き覚えのあることと思ひますが、市外から来られるお客様、また、初めて聞く方に、「百年の杜」という表現を容易に理解、受け入れられるのか難しいように感じます。百年の杜づくりを解説するような表現を付け加えても良いのではないのでしょうか。</p>	<p>遠藤進 副座長</p>
---	--------------------

<p>解説の中では大人だけでなく子供まで、そして事業者の皆様も広く市民ととらえとあります。しかし、開催理念（案）では、市民や事業者とともに次世代へと続く「百年の杜」のまちづくりを進めるため、と述べています。子供達（小学生から大学生まで）の言葉がどこにも出てきません。次世代を担う子供達を入れるべきではないでしょうか。ご検討ください。</p>	<p>佐藤修 委員</p>
--	-------------------

○開催理念3に関する意見

<p>「みどりが持つ多様な機能に着目し」を「ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、」といったような、ソフト面も意識できるような書き方にしていたけると大変嬉しく思います。</p>	<p>佐藤美嶺 委員</p>
---	--------------------

(3) その他意見等

○全国都市緑化フェアの概要に関する意見 資料3

<p>平成元年（1989年）第7回の遺産にはどのようなものがあるでしょうか？</p>	<p>渡部桂 委員</p>
<p>「都市緑化意識の高揚に関する事業」での「市民への都市緑化への参加機会」については、催事への参加が契機となり、その後に継続する活動を生み出すことも大事かと思えます（新しい活動を起こすことも大事だが、既存の活動に参加者を増やすことも大事）。</p>	
<p>「都市緑化に係る技術普及・向上に関する事業」では、「技術」自体を会場で知っていただくことは大事と思えます。次に伝統的な技術への理解と技術者の新規掘り起こしも大事と思えます。華やかな「庭園緑化」や「花卉園芸」に目が行きがちですが、日常の身近な緑地管理などにどのように市民が参加できるかという、プログラムの技術にも注目したいところです。それがフェア後の遺産になれば尚よしと思えます。</p>	

○全国都市緑化フェアの開催誘致に関する意見 資料4

<p>フェア開催による都市緑化、交流人口拡大、経済効果、都市ブランド発現、震災復興、の意義は全て大事と思えます。また、津波被害がある東部エリアにも、会場を位置づけることは復興過程の現状理解の意義があると思えます。</p>	<p>渡部桂 委員</p>
<p>会場は、青葉山足元のメイン会場と都市内のサブ・スポット会場、東部エリアが想定されておりますが、都市は周縁部があってこそその集約地であり、「都市緑化」の焦点がズレてはいけませんが、郊外には農地があり農業があり、花卉生産などもあります。周縁部も含む会場の在り方が、仙台フェアの特徴や、交流人口拡大、経済効果、都市ブランド発現、震災復興に繋げられるのではないのでしょうか（公園関連セッションがメインで、農地は入らないのかとは思いますが・・・）。</p>	

○全国都市緑化仙台フェア会場設定イメージに関する意見 資料4別紙

メイン会場のエリアについて、資料の図を拝見すると、西公園北側エリアも一部入っているように見えます。北側エリアについてはメイン会場に入るのか。入る場合、どのあたりまで会場となるイメージか教えてください。(ちょうど西公園プレーパークの開催場所がそのあたりになります)

佐藤美嶺  
委員